

スリランカ・サラナンダ財団から

# 「国際栄誉賞」受賞

—— 黒田住職と日蓮宗の石井師ら四人 ——

六月二十日に授賞式

スリランカで長年にわたり、教育・文化・宗教活動を展開した高僧、ウドゥヌワラ・サラナンダ・セロの業績を世に広めるために創設された政府公認の慈善団体「サラナンダ財団」は「国際栄誉賞」として日本の横浜善光寺留学僧育英会の黒田武志理事長（曹洞宗善光寺住職）と、法華仏教国際交流協会の石井英雄会長（日蓮宗長照寺住職）をはじめ四人を選び、授賞式が六

月二十日に現地で行われた。

財団の名称になっているウドゥヌワラ・サラナンダ・セロは、今から約百三十年前に生まれた僧で、幼少の頃から聖職者に惹かれ、小学生



の時に出家した。その後、ダルマパーラ居士と出会い、インドの大菩提会に入会。以後二十二年間、インドで教育・社会・宗教活動に従事した。パーリ語を教え、大菩提会が発行する英文雑誌の編集者としても活躍した。

一九〇九年、スリランカの虐げられた人々の救済を目指して母国へ戻ると、寺院を建立し、出家を希望する子供たちを育て、寺を与えた。

セロの僧伽は大きな勢力を形成し、さまざまな社会活動を展開した。一九四七年にセロが死去した時には、僧侶の数は三千人を超えていたという。

セロの死後、宗教・教育・文化・民族活動など幅広い分野で活躍したセロの偉大な足跡を顕彰するために財団が設立された。財団では毎年、若い僧侶や社会活動家、学者、仏教の外護に尽くした信徒などを選んで「荣誉賞」を贈り、その業績を称えている。

今年度の受賞者は十一人で、そのうち、日本人の黒田師と石井師はじめ法華仏教国際交流協会のメンバー四人は「国際荣誉賞」に選ばれた。

黒田住職は横浜善光寺留学僧育英会を設立し、仏教を学ぶ若い僧侶や研究生の海外留学、外国から日本への留学生を支援する育英事業を長年続けてきた。また、石井師ら四人は、法華仏教国際交流協会の活動を通じて、湾岸戦争の際の平和運動や、子供に対する福祉活動、古代遺跡の保護、スリランカの民族問題などに努力してきたことが高く評価された。

横浜善光寺留学僧育英会は、これまで世界十三カ国に日本の留学生を送り出し、九カ国・一地域から外国人留学生を受け入れてきた。留学生には滞在に必要な経費と往復旅費を育英金として支給している。

スリランカから日本への留学生は三人、日本からスリランカへの留学生は四人にのぼってい

る。

授賞理由の中で、財団は黒田師に対し「この育英会は世界の仏教修学僧に奨学金を与えている。これまで師は七人の者にスリランカに対する留学奨学金を与えてきた。他の十七カ国へも八十一人に奨学金を提供している。われわれは尊師の活動と献身を評価する」と称えている。

### 「ブッダの心で生きてゆく」

授賞式は六月二十日、シンハラ王国の首都だったクルネーガラ市の公会堂で挙行され、会場には千人を超える僧侶や信徒が参集し、スリランカ仏教の最長老であるマハナヤカ派のウエウエデラニヤ・メダランカラ大僧正、ラタナヤケ国会議長、ロクバンダラ前文化教育宗教大臣、セクラジャパティ中央議長、財団のゲムノアピスヌル理事長、クレトウンガ文化教育宗教大臣、シニセーティクレ建設大臣ら要人が参列す

る中で榮譽が称えられた。

盛大な歓迎を受けて式典に臨んだ方丈は、ラタナヤケ国会議長から団扇の形をした記念楯（タラパット）と称号「ダルマ・ケールティ・スリ・ローカルタ・チャリエ」の表彰状を受けた。

受賞者を代表して黒田住職が謝辞を述べ「伝統ある古い都で榮譽ある賞を受けたことを光榮に思う。日本とスリランカは共に仏教の国であり、釈尊の教えを信奉している。人類が釈尊の教えにより平和になるよう願い、ブッダの心で生きていきたい」と決意を披瀝した。